

2026年3月期

第2四半期 決算説明資料

(コード:416A)

富士ユナイトホールディングス株式会社 (上場廃止となった子会社：富士興産株式会社)

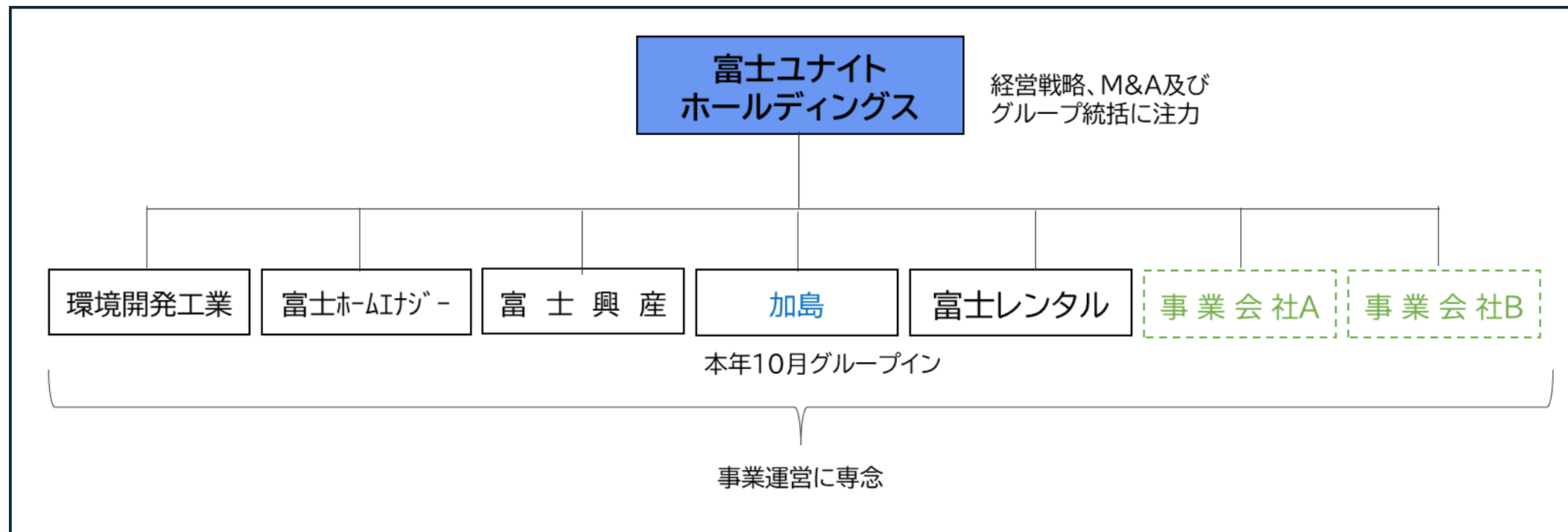
01 持株会社体制発足 ～次なる成長ステージへ～

変わる明日を、しなやかに支える
be open to changes for tomorrow



富士興産グループの「富士」を継承し、社会環境との調和とグループ会社間の結束を実現するという想いを込めて、「融和、連携、協力」の意味をもつUNITED(ユナイト)と名付けた。

持株会社体制への移行により、効率的にグループ組織運営を行い、グループの持続的な成長を実現する
持株会社の役割：グループ戦略、戦略的M&Aおよび新規事業創出、グループガバナンス（内部統制）
事業会社の役割：既存事業の改善/改良を通じて、最適オペレーションを磨いていく（収益性向上）



VISION

環境のグリーン化対応とエネルギーの安定供給を通じて
社会に貢献するグループであり続ける

VISION

STRATEGY

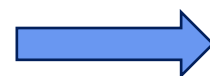
- ①積極的な投資によるリサイクル事業の「拡大」
- ②環境対応型エネルギーのコアビジネス化の「加速」
- ③着実な事業戦略の「推進」

STRATEGY

「グリーン」「エネルギー」「インフラ」の3つの新たな領域に再編し、富士ユナイトグループは更なる成長ステージへの挑戦を開始しました。

再編した各事業領域へ経営資源を最適に配分することによって、持続的な成長を加速させ、グループ価値の最大化を目指します。

領 域	環境開発工業	富士ホームエナジー	富士興産	加島	富士レンタル
グリーン	○ リサイクル	○ ホームエネルギー	○ 再生可能エネルギー	○ リサイクル	
エネルギー			○ 石油	○ 石油	
インフラ					○ レンタル

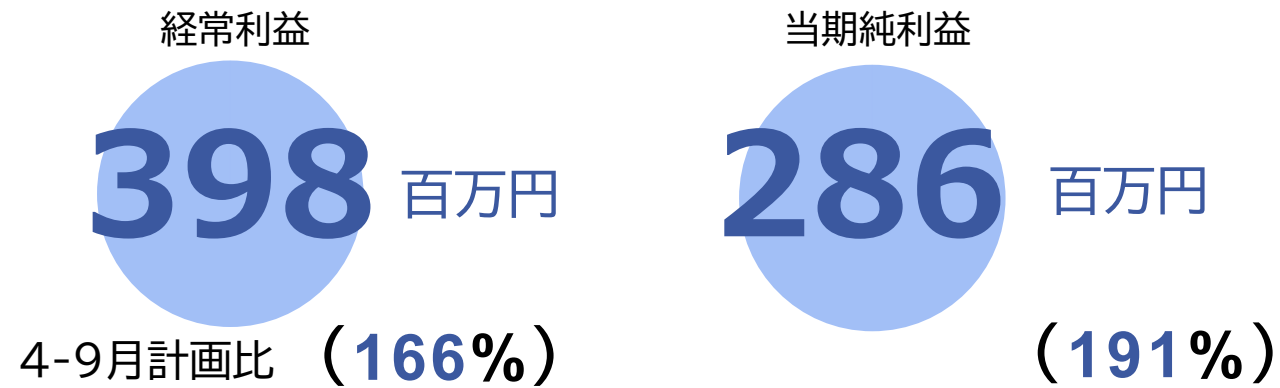


持株会社体制への移行を機に、グループの持続的成長に向けた新中期経営計画の策定を開始。2026年5月発表予定。

02 2026年3月期 第2四半期 決算内容

2026年3月期（4－9月）決算ハイライト

2026年3月期（4－9月）実績



- ✓ グリーン領域のリサイクル事業、ホームエネルギー事業、インフラ領域のレンタル事業が好調に推移し、
経常利益 計画比**166%**、
純利益 計画比**191%**となった

2026年3月期（4－9月）計画



- ✓ エネルギー領域の石油事業は、
採算販売により、営業利益で
前年比**166**百万円の改善が図れた。

2026年3月期（4－9月）決算概要 ～3領域 5事業～

（単位：百万円）

	2026年3月期 4-9月決算実績	2026年3月期 4-9月決算計画	達成率	2025年3月期 4-9月決算実績	前年対比
売上高	31,089	36,000	86%	28,828	108%
営業利益	391	240	163%	236	166%
グリーン領域 リサイクル 再生可能エネルギー ホームエネルギー	64	▲10	-	140	46%
エネルギー領域 石油	81	90	90%	▲96	-
インフラ領域 レンタル	247	160	154%	192	129%
経常利益	398	240	166%	251	159%
純利益	286	150	191%	187	153%

営業利益

64 百万円

(計画比 +74百万円)
(前期比 ▲76百万円)

● リサイクル事業

- ・オイルリサイクル・環境リサイクル事業が好調に推移し、費用管理の徹底により採算性を維持して増益を確保した
- ・環境リサイクル事業は、油漏洩事故への対応において、問い合わせ窓口を広げ、業務の効率化を図り、顧客満足度を高めることで受注が増加した

● 再生可能エネルギー事業（旧セグメントの石油事業（バイオ燃料・再生重油）・環境関連事業（メガソーラー））

- ・バイオ燃料販売は、設備コスト負担が増えたため、利益計画未達であったが、建設現場向けを中心に販売数量が増加した
- ・メガソーラー事業は、1Qに修繕や出力抑制の影響を受けたものの、2Qの好天により、営業利益計画を達成した

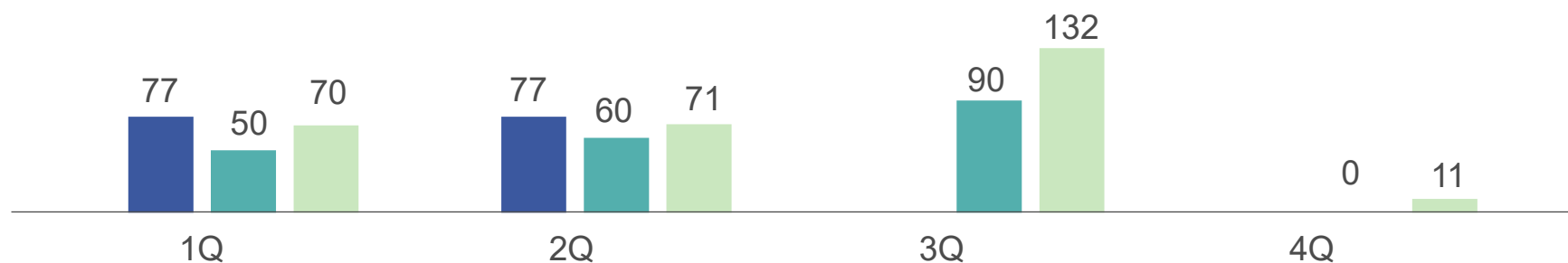
● ホームエネルギー事業

- ・新規需要家の獲得と販売単価の維持により、計画利益を達成した

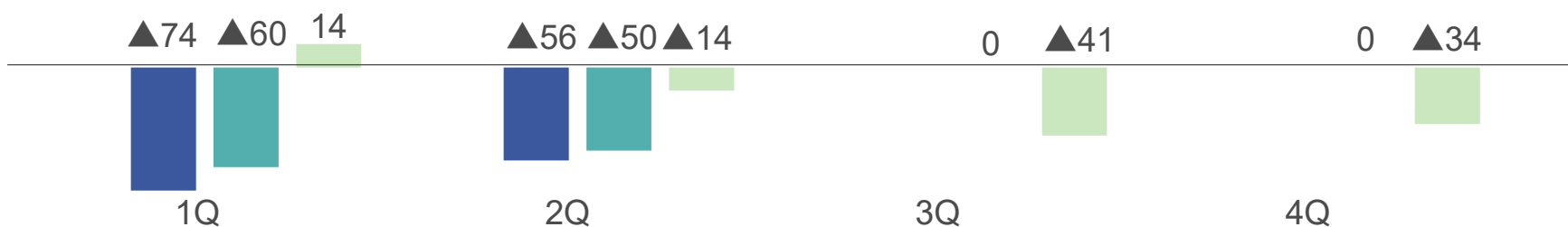
グリーン領域 業績②（リサイクル事業・再生可能エネルギー事業・ホームエネルギー事業）

リサイクル事業 四半期別営業利益推移

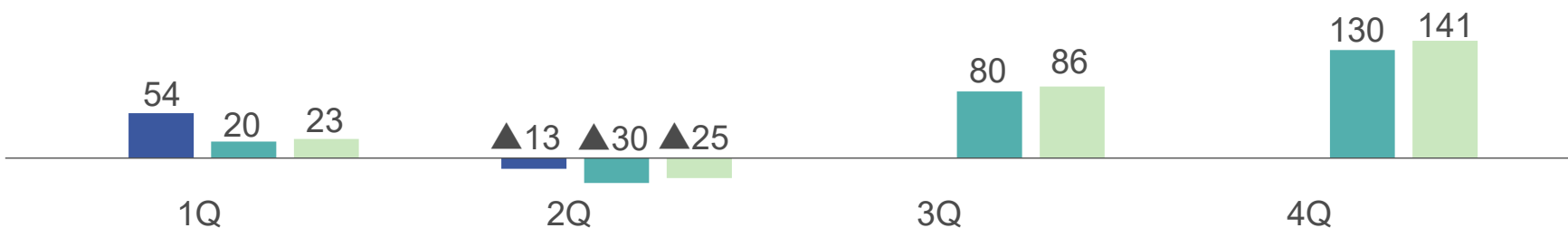
■ 当期実績 ■ 当期計画 ■ 前期実績 単位:百万円



再生可能エネルギー事業 四半期別営業利益推移



ホームエネルギー事業 四半期別営業利益推移



営業利益

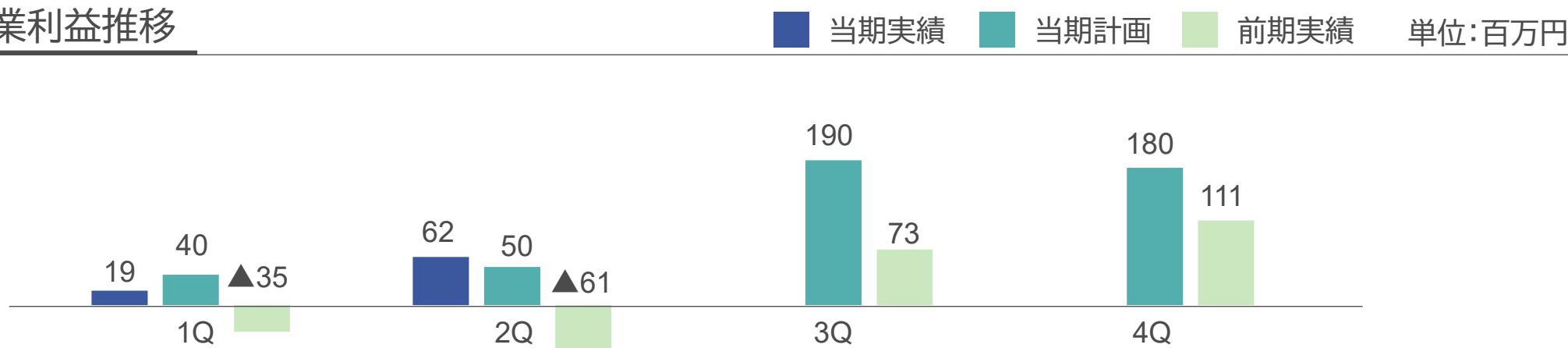
81 百万円

（計画比 ▲9百万円）

（前期比 +177百万円）

- 石油事業の燃料油は、採算販売により、前年同期から166百万円の改善が図れた
- アドブルー販売は、カーショップ、ホームセンターなどの小売店向けの販売を強化したことにより、利益計画を達成した

四半期別営業利益推移



営業利益

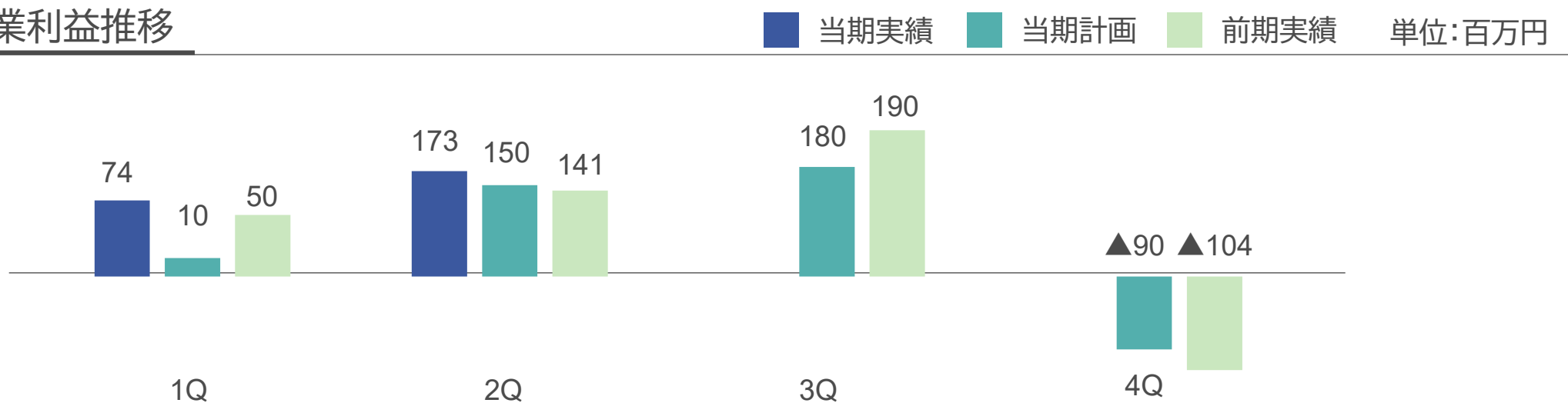
247 百万円

(計画比 +87百万円)

(前期比 +56百万円)

- 民間の解体工事需要が好調であったことから、利益計画を大幅達成した
- 公共工事需要が計画比で堅調に推移した
- 新たな分野の顧客開拓については順調に進捗している

四半期別営業利益推移

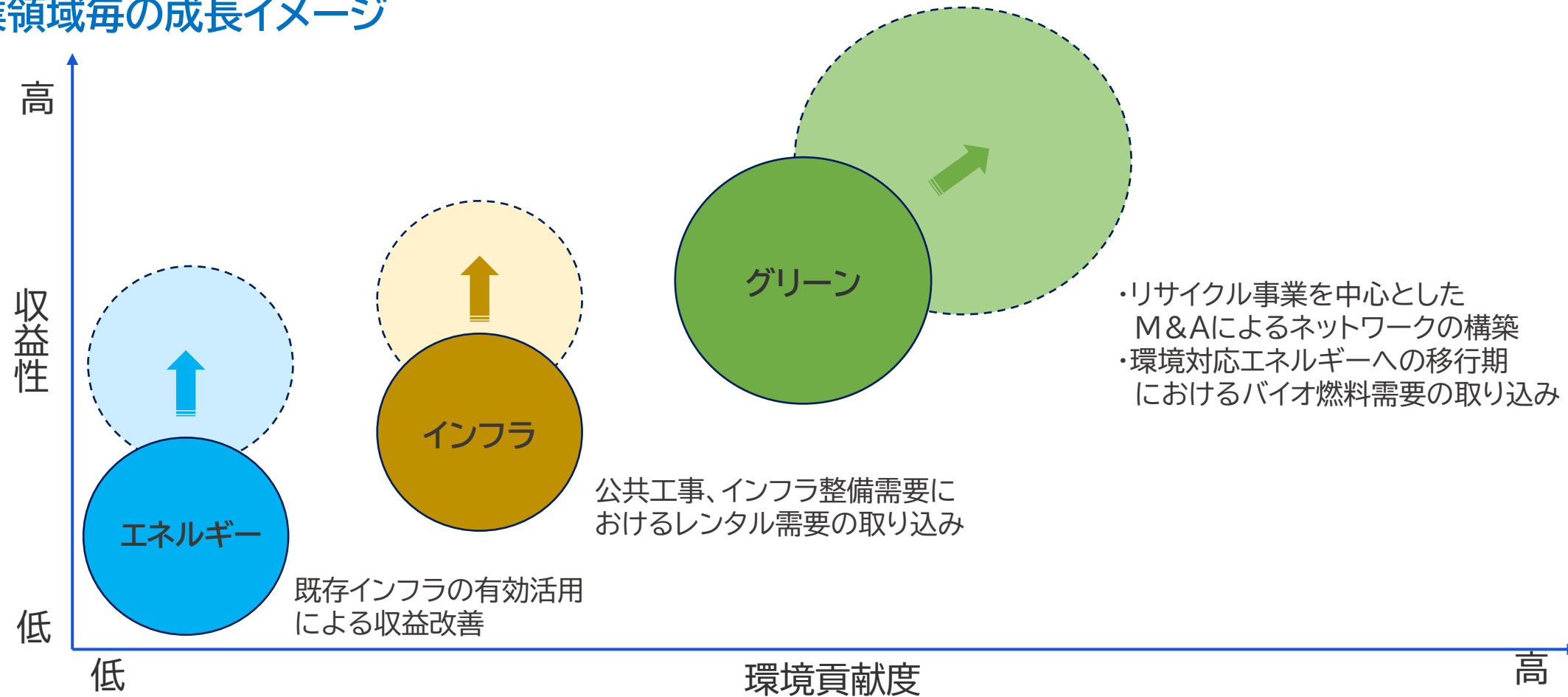


	単位	中間	期末(予想)	合計
純利益	(百万円)	150	500	500
配当総額	(百万円)	204	204	409
配当単価	(円/株)	31	31	62
対象株数	(千株)	6,588	6,588	-
自己株式取得	(百万円)	-	-	-
総還元額	(百万円)	-	-	409
総還元性向		-	-	81.7%

新たなステージへ ～富士ユナイトグループの成長ビジョン～

持株会社体制への移行により、「富士ユナイトグループ」として新たなスタートを切りました。
グループの結束＝ユナイトにより、次のステージへと成長してまいります。

事業領域毎の成長イメージ



- ・資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社および情報提供者は一切責任を負いかねます。
- ・当資料に記載されている当社の現在の計画等は、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらにより将来予測・業績予想には、リスクや不確定な要因を含んでおります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。